

国際社会開発専攻 博士課程(通信教育)

専攻の概要

国際社会開発研究科は、2002年度に開設され、インターネットにより世界中からアクセスできる通信制大学院として、短期間に高い成果を認められてきました。教員と院生が一丸となって文部科学省「21世紀COE」研究の一翼を担い、その後「福祉と開発の融合」による新領域の開拓に努めてきました。アジア福祉社会開発研究センターの開設、文科省委託事業「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」(2014-16)〈地域再生のための「福祉開発マネジャー」養成プログラム〉もその成果の一端といえます。

これらの成果と経験を基礎に、福祉社会開発研究科国際社会開発専攻博士課程は、「社会開発・開発教育の専門家」を育成できる高度研究者・指導的専門家の育成を目指しています。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

国際社会開発専攻博士課程は、開発主体である人々と地域社会に焦点をあてた学際的な開発学において、相互に関連しあう特別研究により教育課程を編成し、実施します。

「開発と文化」特別研究では、地域社会の文化的価値基盤をもとに、開発実践を読み解き、ローカルな開発概念検討について研究指導を行います。

「障害と開発」特別研究では、障害を一つの切り口として、多様性を包摂した開発の分析枠組みや実践について、社会構成主義に基づき研究指導を行います。

「環境と開発」特別研究では、持続可能な地域システムの構築を図るために必要な、自然・社会・人的資源の把握・評価・管理についての実証的研究指導を行います。

「住民主体の開発」特別研究では、具体的な事例分析を通して、持続的な開発・発展に不可欠な地域住民の主体性発露を可能にする政策や援助アプローチの多面的な分析と指導を行います。

「地域マネジメント」特別研究では、ミクロとマクロをつなぐ中間領域を射程におき、協働型ガバナンスや支援的政策環境のあり方に焦点をあてた研究開発と指導を行います。

教育法

本専攻では、海外在住者も含む国際社会開発領域の現職社会人を対象とするため、日常的にはインターネット掲示板とメーリングリストを中心とした通信教育によって、双方向による研究指導を行います。通信教育による指導に併せ、適宜各地で行なう個別の対面指導もあります。

研究年次報告に際しては、インターネット電話サービス(Skype、Googleハンアウトほか)を利用し、国内外からの報告と助言を実施しています。



学位：博士(開発学)

入学定員：4名

出願期間：2018年1月 5日(金)～1月22日(月)

試験日：書類選考のみ

合格発表：2018年2月 9日(金)

選抜方法：出願書類審査

〈特に研究計画書と職歴・業績に基づく〉

担当教員

授業科目名	指導教員
「ソーシャルビジネスと開発」特別研究	雨森孝悦*2
「開発と文化」特別研究	小國 和子
「障害と開発」特別研究	久野研二*1
「環境と開発」特別研究	千頭 聡
「住民主体の開発」特別研究	野田直人*1
「福祉開発」特別研究	穂坂光彦*1*2
「地域マネジメント」特別研究	吉村 輝彦

開講および担当教員は予定であり、今後変更する可能性があります

*1：客員教員 *2：新規の指導院生の受け入れなし

学位授与までの流れ

年次	月	研究及び学位授与までの流れ
1年次	5月	論文構想発表会 研究計画書提出 ※出願時の計画書を、入学後の指導と発表会を経てさらにアクションプランとして練り上げて提出。
	10月	論文構想発表会 ※研究科教員の幅広い助言・指導等を受けられる機会となる。
	2月	研究年次報告書提出
2年次	5月	博士論文執筆計画書提出
	10月	論文構想発表会
	11月	博士論文執筆資格審査 申請
	2月	研究年次報告書提出
3年次	5月	博士論文執筆資格審査 申請 ※未申請者対象 博士論文執筆計画書提出 ※執筆資格審査の未申請者対象
	9月	博士学位授与第1次審査 ※博士論文執筆資格審査に合格していることが申請要件。
	12月	博士学位請求予定論文 公開発表会
	1月	博士学位授与審査 ※博士学位授与第1次審査に合格していることが申請要件。
	3月	学位授与